

SUPPLEMENT TO GENES GENET.SYST. (2013)88(2)

April 2013

# GSJ

## コミュニケーションズ

PROCEEDINGS OF THE SOCIETY

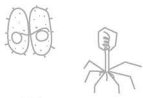
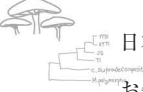













GENETICS SOCIETY OF JAPAN (GSJ)

◆創立1920年◆

日本遺伝学会

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/gsj3/index.html>

	目 次	頁
	日本遺伝学会第85回大会ニュース（その2）.....	3
	お知らせ .....	12
	2013年度第1回幹事会・評議員会議事録 .....	13
	第14回遺伝学談話会報告 .....	15
	日本環境変異原学会第42回大会（岡山）.....	16
	国立遺伝学研究所 テニュアトラック准教授募集要項 .....	16
	独立行政法人理化学研究所 准主任研究員（定年制職員）公募 .....	17
	第30回（平成25年度）持田記念学術賞候補者推薦依頼について .....	19
	第30回（2013年度）井上学術賞受賞候補者の推薦について .....	20
	第45回（2013年度）内藤記念科学振興賞候補者推薦について .....	21
	<b>本会記事</b>	
	会員異動 .....	22
		

## 日本遺伝学会第85回大会ニュース

2013年の第85回大会は、慶應義塾大学日吉キャンパスを会場として、下記のような企画の準備を進めております。全国から多くの皆様のご参加をお待ちしております。

大会ホームページ (<http://gsj3.jp/taikai/85taikai/>) では、最新の情報を順次掲載しております。ランチョンセミナー、機器・試薬等展示、広告掲載、市民公開講座、男女共同参画推進に関わる大会参加支援、会場へのアクセスについての詳細は大会ホームページをご覧ください。

第85回大会でも学生の参加を歓迎するため、学生会員および学生非会員の参加費は無料とし、演者には旅費の一部援助も行います。

優れた発表は Best Papers 賞として表彰いたします。なお、昨年度 BP 賞の一部は学会長主催プレナリークシヨップとして講演披露されます。

1. 会 期： 2013年9月19日(木)・20日(金)・21日(土)  
なお、公開市民講座を9月21日(土) 17:30から予定しております(後述)。
2. 会 場： 慶應義塾大学 日吉キャンパス 第4校舎独立館  
(〒223-8521 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1)  
・会場へのアクセスについては、大会ホームページをご覧ください。  
<http://gsj3.jp/taikai/85taikai/access.html>
3. 企 画
  - (1) 一般講演(9月19日午前・20日午前・21日午前)
    - ・講演時間は1題につき15分(発表12分、質疑応答3分)を予定しています。PC用プロジェクター機材のみをご用意しますので、各自発表用PCをご持参下さい。
    - ・また一般講演では、第84回大会から試行的に始まった国際セッション枠を設けます。これは日本遺伝学会の国際化を進める上で、遺伝学分野に在籍する留学生の学会入会と大会参加の奨励を目的としており、発表と質疑応答のすべてを英語でおこなうセッションです。興味のある留学生がいましたら是非お問い合わせと幸いです。なお、大会ホームページでは英語版の参加登録・演題登録ページ ([http://gsj3.jp/taikai/85taikai/e\\_index.html](http://gsj3.jp/taikai/85taikai/e_index.html)) をご用意しております。
  - (2) 特別講演(9月19日 13:15-14:30)  
大会1日目の午後には、根井正利博士(ペンシルベニア州立大学教授)による特別講演を開催します。皆様ぜひご出席ください。
  - (3) シンポジウム及びワークショップ(9月19日午後・21日午後)  
シンポジウム3課題、ワークショップ14課題を予定しています。タイトルと世話人は以下の通りです(一部、仮題を含みます)。なお、WS2、WS12では一般講演からの演題を公募します。応募される方は、一般講演の申し込みの際に希望するワークショップを選択してください。  
【シンポジウム】  
S1. 公開シンポジウム(9月19日 14:45-18:30)
    - ・テーマ：マイクロ進化とマクロ進化のギャップをどう埋めるのか
    - ・世話人：田中 幹子(東京工業大学)、北野 潤(国立遺伝学研究所)、岡田 典弘(東京工業大学)
    - ・概要：生物の進化は途切れることのない時間軸に沿ってなされるものである。一方、進化のメカニズムを理解する試みとしては、マイクロなスケールからの集団遺伝学・生態遺伝学のアプローチとマクロなスケールからの進化発生学のアプローチに分断されており、

双方の研究スタンスには大きなギャップが開いたままである。本ワークショップでは、特に脊椎動物を題材に研究を展開されている進化発生学と集団遺伝学・生態遺伝学の立場からの演者を招き、マイクロ進化とマクロ進化の研究のギャップを埋めるような新しい研究展開の可能性について議論したい。

S2. 公開特別シンポジウム—アジアの遺伝学の最前線— (English) (9月21日 13:30-17:15)

- ・ テーマ : Big Advances of Genomics and Molecular Genetics in Asia
- ・ 世話人 : Takashi Gojouchori (NIG), Hiiroshi Iwasaki (Tokyo Inst Tech), Toshinori Endo (Hokkaido Univ)
- ・ 概要 : Biological sciences entered into the new era that BIG DATA gives us new insights to the question “what is life at all?” upon the completion human genome and further proceedings of projects. Genomics aided by bioinformatics and molecular genetics are central to current genetics. Genomics had changed its shape from just determining a single genome sequence into multiple genomes to compare with, and to identify commonness and variation across and within the species, leading to produce BIG DATA, such include 1k to 10k genome sequencing projects. The molecular genetics has soundly been a strong driving force to develop our knowledge of molecular mechanisms of most fundamental mechanisms of genetics, such as DNA replication, transcription, translation and so on. Scientists in Asia have made numerous and important contributions to both fields for decades. Most remarkably, researches in Asia are getting more and more important especially in those discipline. Asian researchers are taking bigger parts of the biological sciences amongst others. The symposium aims at exchanging information to develop better relationships each others in person for future research expansion in Asian countries, considering the importance of Asian research community. We plan six to eight top class researchers studying in Asia and Japan for the talk.

S3. 若手企画公開国際シンポジウム (English) (9月21日 14:45-17:15)

- ・ テーマ : How can epigenetic information be used to solve global issues?
- ・ 世話人 : Diana Buzas (NAIST), Yosuke Tamada (NIBB)
- ・ 概要 : Multicellular organisms survive and adapt to their environment using their genetic and epigenetic heritage; such partitioning of heritable information ensures higher adaptability. While a stable, irreversible mutation in DNA can lead to new characteristics over generations, and such information is moreover amenable to manipulation for human purposes, less is currently known about how reversible changes in gene expression can constitute inheritance. Also, it remains difficult even to reach a unifying definition of epigenetics, despite the fact that numerous new examples of epigenetic phenomena are rapidly being added to earlier well-documented cases. Our proposed international workshop will introduce cutting-edge epigenetic research, and also address the great potential and excitement regarding the impact of epigenetic research on our society in the future. All speakers will be strongly encouraged to elaborate on the implications of their work for how current global issues can be addressed using epigenetic research, and we will reserve ample time for general discussion.

**【ワークショップ】**

WS1 : ゲノム発現制御の新展開 : 転写の開始, 伸長, RNA プロセッシング (9月19日 14:45-16:30)

- ・ 世話人 : 山口 雄輝 (東京工業大学)
- ・ 概要 : 立ち後れていた転写開始後の研究は2000年以降, 急速に進展し, 遺伝子のプロモーター領域だけでなくコード領域にも種々の epigenetic mark が付加されクロマチンレベルの制

御を受けていることや、転写と RNA プロセシングが密接に共役していること、すなわちクロマチンから RNA プロセシングまでを含めた RNA 合成の各段階が協奏的に進むことが分かってきている。本ワークショップでは哺乳動物に加え、ホヤや線虫といったモデル生物で得られた最新の知見を紹介し、ゲノム発現制御機構の統合的理解に向けた道筋を展望したい。

WS2：ショウジョウバエの最新遺伝学（9月19日 14：45-16：30）

- ・世話人：鈴木 崇之（東京工業大学）
- ・概要：ショウジョウバエはその遺伝学的手法に恵まれていたことから、長らく発生生物学のモデル生物として君臨してきた。最近では遺伝学的手法がさらに発展するに及び、さまざまな分野にその裾野を広げている。このセッションでは、日本のショウジョウバエ研究者の中でも新たな視点を持って、研究に取り組んでいる若手の研究者を集めた。行動学、スモール RNA、成長ホルモン、寄生と共生など、その多様な世界の幅の広さと奥深さを紹介したい。

※一般講演からの演題公募：1 演題

WS3：染色体編成の変化をもたらす仕組みとその功罪（9月19日 14：45-16：30）

- ・世話人：菱田 卓（学習院大学）、石井浩二郎（大阪大学）
- ・概要：染色体の転座、重複、欠失などの染色体再編や LOH は、生命機能の劇的な変化を引き起こすポテンシャルを秘めており、生物進化の主要な原動力の一つである一方で、染色体異数性やヒトの発がんの原因ともなっている。本ワークショップでは、染色体の再編や LOH を引き起こす原因や仕組みに関する分子基盤に加えて、その結果がもたらす生命機能への影響について、若手を中心とする研究者の方々に生物学及び医学的な観点から最前線の研究成果を発表していただく。

WS4：マウス遺伝学が解き明かす生命科学の最前線（9月19日 16：45-18：30）

- ・世話人：杉本 道彦（理研 BRC）、牧野 茂（理研 BRC）
- ・概要：マウスは生命現象の基本メカニズムの解明や再生医療など臨床応用を目指した研究において非常に有用なモデル生物として利用されている。その背景として、遺伝的に均一な多数の近交系統が樹立され、各種遺伝子操作技術が利用可能であることに加え、膨大な遺伝情報が整備されているなど、遺伝学的解析のための基盤が充実しているという点が挙げられる。本ワークショップでは、マウスを用いた独自の研究を進める若手・中堅研究者を中心に最新の成果についてご講演をいただき、生命科学的研究においてマウス遺伝学が果たす役割について議論したい。

WS5：転移因子と宿主の相互作用（9月19日 16：45-18：30）

- ・世話人：一柳 健司（九州大学）、佐瀬 英俊（沖縄科学技術大学院大学）西原 秀典（東京工業大学）
- ・概要：転移因子は従来「利己的因子」や「ジャンク」と見なされてきたが、近年、宿主の高次生命機能に重要なタンパク質が転移因子から派生している例や転移因子がシス配列として遺伝子発現の制御に関わる例が次々と報告されている。すなわち、転移因子は単なる寄生因子ではなく、宿主の進化に深く関わる重要なゲノム構成要素であるという認識が確立しつつある。本ワークショップでは動植物の転移因子の機能と制御について最新の話題を提供して頂きつつ、俯瞰的な立場から転移因子と宿主の関係について議論したい。

WS6：核酸の機能制御における細菌の分子生物学からの新たな挑戦（9月19日 16：45-18：30）

- ・世話人：片山 勉（九州大学）、秋山 昌広（奈良先端科学技術大学院大学）
- ・概要：DNA や RNA に対する制御機構の解明は、分子生物学の中心課題である。この課題に対して、大腸菌、枯草菌等のモデル細菌を用いた解析は今なお高い重要性がある。細菌の特性を活用した詳細な分子機構解析や新たな方法論の開発によって、基礎的な教科書を書き換える新たな発見や新展開、これまでは個別に研究されてきた分子システム間の関係機構の解明、ストレス条件下で起こる新たな分子機構の解明等が次々と成されている。

このような面から注目すべき基礎研究を発表し、今後の発展について考察したい。

WS7: 男女共同参画公開ランチョンワークショップ「優れた科学の芽を皆でサポートするために」  
～20年後の研究推進のために今、私たちができること～ (9月20日 12:15-13:45)

- ・世話人: 日本遺伝学会男女共同参画推進特別委員会
- ・概要: 科学分野の男女共同参画の推進を考える上で、研究環境の整備と研究者個人のワークライフバランスの適正化は必須の課題です。様々な施策により研究環境が整えられる一方で、個々の雇用事情は年々厳しさを増しています。職の不安定化や労働契約法の改正、研究者の流動化のなか共働きカップルの同居と子育ては難しくなり、目指すゴールとキャリアパスを描きづらい現状をどう理解し、支援していけばよいのか? 若手は何を求め、私たちに何ができるのか? ラウンドテーブルディスカッションで一緒に考え、提案をしてみませんか?
- ・お知らせ: 「11. 男女共同参画推進にかかわる大会参加支援について」、および「12. 参加登録時におけるアンケートについて」のご案内がありますのでそちらもご覧ください。

WS8: プレナリーワークショップ — 昨年度のBP 賞受賞講演から — (9月20日 13:45-15:00)

Best Papers 賞 (BP 賞) は、多数の審査員による投票により、全ての一般講演から選ばれる名誉ある賞です。それがどんな講演だったか聴いてみたいありませんか? 本大会のプレナリーワークショップでは、前年度 BP 賞受賞者 4 名と、BP 審査員特別賞 1 名にお話しいただきます。演者 (昨年度演題) は、藤本明洋 (肝臓がん27例の全ゲノム解析)、愿山 郁 (植物 DNA 損傷チェックポイント因子 SOG1 は動物ガン抑制遺伝子 p53 のカウンターパートか?)、林 亜紀 (Ers1 因子はヘテロクロマチン蛋白質 HP1 を介してヘテロクロマチン上に RNAi 機構をリクルートする)、幡基友紀 (大腸菌鞭毛レギュロンのアンチアクティベーター遺伝子 ydiV の発現調節)、Diana M Buzas (DNA demethylation in the Arabidopsis thaliana female gametophyte: is DEMETER alone?) で、4 名が女性です (敬称略)。講演では新たな展開を含めたお話をお願いしており、ベストペーパーとして選ばれた最先端研究成果を、惹きつけるプレゼンテーションでお聴きいただくことができます。ひとりでも多くの方に聴講いただくため、他の講演と重ならない総会直後の枠で開催します。面白い演題がピックアップされておりますので、昨年度は他の講演と重なって聴き損ねた方も聴講でき、聴講した方も新たな展開を聴くことのできる機会となっています。抜け出して、遊びに行ってしまうことのないようお願いします。最後になりますが、プレナリーワークショップは、こうした価値ある BP 賞受賞講演をより多くの人に知ってもらおうという趣旨で、五條堀孝遺伝学会前会長の発案によって第82回遺伝学会大会 (北海道) から実施され、好評のため今年で 4 回目を迎えます。満足は保証付です。多くの方のご参集をお待ちしております。

(BP 賞選考委員長 遠藤 俊徳)

WS9: 網羅的ゲノム DNA メチル化解析から現れる新しい生命像 (9月21日 13:30-15:15)

- ・世話人: 小林 一三 (東京大学)、角谷 徹仁 (国立遺伝学研究所)
- ・概要: 「DNA の ATGC 列の上にかぶせられた情報の遺伝」であるエピジェネティクスが、これまで遺伝学が対象としてきた (そして、してこなかった) 様々な生命過程で、中心的な役割を果たす事が認識されつつある。そのしくみの中でも「DNA のメチル化」については、最も多く論文が出ているだけでなく、ここ数年新発見が続いている。さらに、技術的にも、次世代シーケンサーや第3世代シーケンサーによるメチローム解析など、進展が著しい。本ワークショップで紹介したいのは、最新の網羅的メチローム解析技術によって、エピジェネティクス過程の本質に迫ろうという、最先端での試みである。

WS10: 異なるゲノム間の軋轢と協調 ～相互作用のゲノミクス～ (9月21日 13:30-15:15)

- ・世話人: 鈴木 剛 (大阪教育大学)、高橋 文 (首都大学東京)
- ・概要: 自然界でおこる高次の生命現象は、単純な遺伝学ではなく、複雑に絡み合う遺伝子産物の組合せによる相互作用 (ゲノム・遺伝子相関) で決定されることから、遺伝学分野では、動植物問わず様々な階層のゲノム間相互作用の研究がターゲットされている。本ワーク

ショップでは、異種及び同種内のゲノム間での様々な軋轢と協調の背景にある遺伝子ネットワークに焦点をあて、相互作用を生み出す分子機構に対する議論を展開し、新たなアプローチ法を模索する。

WS11：活性酸素の生理機能とその制御機構（仮題）（9月21日 13：30～15：15）

- ・世話人：蓮沼 仰嗣（横浜市立大学木原生物学研究所）
- ・概要：活性酸素は生物の生理機能をエネルギーの側面から制御している。太陽光の強いエネルギーに曝される植物では、強い活性酸素が発生する。活性酸素分子種は概日リズムを制御する。強い活性酸素は、カロテノイドの働きで、生体への作用が緩和される。動物では活性酸素は多くの疾患のみなもとであり、また遺伝子の安定性を制御している。強い活性酸素の消去機構を解析するとともに、その機構を増強する変異を入れる方法を開発した。その結果高収量性の作物の作出に成功した。大気中炭酸ガスの上昇による地球温暖化を緩和する方法を与える。

WS12：接合伝達の新局面：接合伝達システムの温故知新：ゲノム時代での新展開（9月21日 15：30～17：15）

- ・世話人：片岡 正和（信州大学）、板谷 光泰（慶應大学）
- ・概要：他細胞に長大なDNAを移動させうる接合伝達現象は、細菌界での遺伝子水平伝播による遺伝的多様性獲得機構の主役であると考えられている。また、接合伝達は巨大DNAを水平伝播可能であり、ゲノム操作を中心とした合成生物学やシステム生物学への展開が期待できる。ワークショップでは、この古くから認められている接合伝達システムに深く学び、ゲノム時代でのゲノム操作、ゲノム進化の観点に即した多様な応用展開の可能性を含めて、この魅力的なシステムの新展開を議論したい。

※一般講演からの演題公募：2演題程度

WS13：遺伝子に対する放射線の影響：福島復興に役立つ既存および新規データ（9月21日 15：30～17：15）

- ・世話人：Tomoko Y. Steen（The Georgetown University）
- ・概要：福島第一原子炉の事故から2年を迎えた現在も、放射線の生物に対する影響が、まだ確立していない。チェルノビルの事故で、FALLOUTによる影響は、ロシア政府の制限によって、研究が遅れ、人を含むいろんな生物に取り返しのつかない影響を与えた。福島で、その二の足を踏まないためにも遺伝学研究をいち早く進めていくことが必要である。既存する情報をうまく利用して、人および農産物の安全性を確保していく必要がある。

WS14：社会における遺伝リテラシーの向上に向けて：学校教育のあり方（公開ワークショップ）（9月21日 15：30～17：15）

- ・世話人：池内 達郎（元・東京医科歯科大学）、向井康比己（大阪教育大学）
- ・概要：文科省の学習指導要領が改訂され、高校での「生物基礎」（2単位）が昨年4月から、「生物」（4単位）が今年4月からはじまり、新しい教科書が出そろった。遺伝子、DNAの分子レベルでの解説が（遅ればせながら）必修になったことは画期的であるが、メンデルの遺伝法則が中学校に移行し、高校では教えられなくなった。また「ヒトを対象とした身近な遺伝」への扱いに大きな改善はみられない。社会一般に遺伝リテラシーを定着させるために、中・高校での遺伝教育は本来どうあるべきかが問われている。

#### 4. 総会・受賞講演

- ・日時：9月20日(金) 13：45～18：15（プレナリーワークショップを含む）
- ・会場：慶應義塾大学 日吉キャンパス 第4校舎独立館 D101

#### 5. 懇親会

- ・日時：9月20日(金) 18：30～20：15
- ・会場：慶應義塾大学 日吉キャンパス 生協食堂

## 6. ナイトゼミナール（分野別懇親会）

・日 時：9月19日(木) 19：30頃～

（時間・場所は分野ごとに異なります。詳細は追って大会ホームページ等でお知らせします。）

## 7. 参加登録

## (1) Web 登録

大会に参加される方は、6月3日(月)9：00から8月6日(火)までの間に、大会ホームページ (<http://gsj3.jp/taikai/85taikai/>) の大会参加登録画面から事前参加申し込みを行ってください。なお参加登録の際、男女共同参画推進のための簡単なアンケートをお願いしておりますので、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

## (2) 参加費の振込

・事前参加でお申し込んだ後、お振込いただく際は、GSJ コミュニケーションズ88(2) の郵便払込取扱票の通信欄に下記の記載事項を記し、下記ゆうちょ銀行の「日本遺伝学会第85回大会」口座までお振込みください。

・通信欄の記載項目

1. 参加者の区分（一般会員・学生会員 [無料]・一般非会員・学生非会員 [無料]）
2. 懇親会の参加・不参加（学生も懇親会費は有料です）
3. 参加登録番号（Web で事前参加登録が完了した後に知らせする番号です）

・払い込まれた方が特定できるように一人1枚ずつ別々の払込取扱票をお使いください。

1枚の払込取扱票を用いて研究室単位等でまとめて支払わないようお願いします。

所定の振込用紙がない場合、郵便局に備え付けの振替用紙（青色）で、下記口座までお振込みください。

<送金先>ゆうちょ銀行

・口座番号 00110-5-485460

・口座名称 日本遺伝学会第85回大会（ニホンイデンガツカイダイハチジュウゴカイトイカイ）

<他行等からの振込の場合>

・店 名：019

・預金種目：当座

・口座番号：0485460

## 大会参加費

	事前登録（8月6日まで） 8月19日までにお支払いください	当日登録
一般会員	¥7,000	¥8,000
学生会員	無料	無料
一般非会員	¥9,000	¥10,000
学生非会員	無料 (要旨集は当日実費販売)	無料 (要旨集は当日実費販売)

## 懇親会費

	事前登録（8月6日まで） 8月19日までにお支払いください	当日登録
一般（会員・非会員）	¥6,000	¥7,000
学生（会員・非会員）	¥3,000	¥4,000



**【注意事項】**

- ・ 会員の方は、2013年度までの遺伝学会会費を参加登録日までにお納め下さい。
- ・ 現在非会員で会員料金で参加される方は、参加登録をする前に入会手続きと会費納入を行ってください (<http://gsj3.jp/nyukai.html>)。
- ・ 大会及び懇親会への参加者は、参加登録を行ってください。参加章の無い方は、原則として会場への入場はできません。
- ・ 事前登録としての参加登録の完了には、Web 参加登録及び参加費振込の両方が必要です。8月19日(月)までにお振込されなかった場合は当日参加とさせていただきます。  
注) 海外から事前参加登録された参加者は当日受付でのお支払いとなりますので、この限りではありません。
- ・ 8月7日(水)以降の参加登録は、当日受付にてお願いします。
- ・ Web での事前参加登録後、8月19日(月)までに参加費振込を済まされた方には、9月上旬に参加章と講演要旨集を郵送いたします。
- ・ 海外から事前参加登録された方には大会当日に参加章と講演要旨集をお渡しますので、受付までお越し下さい。
- ・ 当日登録の学生(会員・非会員)は、学生証の提示をお願いします(提示のない場合、一般非会員扱いとなります)。

**8. 講演申し込み： 2013年6月3日(月) 9:00-7月3日(水)**

シンポジウム・ワークショップ及び一般講演は、大会ホームページ (<http://gsj3.jp/taikai/85taikai/>) の参加登録画面(6月3日9:00より稼動)からお申し込みください。講演申し込みは必ず Web 上での参加登録を済ませた後におこなってください。参加登録番号が必要となります。

- ・ 留学生会員や海外からの参加者のために、一般講演の一部を国際セッション枠とし、英語による発表に限定します(9月20日午前・21日午前を予定)。英語での発表を希望される方は必ず発表言語の選択肢で(English)をご選択ください。留学生の指導教員の先生方には登録のアシストを宜しく願っています。なお大会ホームページでは、英語による参加登録・講演申込みのページもご用意しております([http://gsj3.jp/taikai/85taikai/e\\_index.html](http://gsj3.jp/taikai/85taikai/e_index.html))。

**【注意事項】**

- ・ 日本語原稿と英語要旨の両方の登録をお願いします。英語の要旨は、実際の発表後に提出してもかまいません。その場合は、登録時には、“To be submitted later”と入力しておき、10月4日(金)までに演題登録ページから登録番号により英語要旨を登録して下さい。
- ・ 講演の申し込みは一般講演およびシンポジウム・ワークショップを含め、1人1題を原則とします。
- ・ 一般講演で発表できるのは日本遺伝学会会員のみです。会員の方は2013年度までの学会費を7月3日(水)までにお納めください。
- ・ 非会員の方が一般講演で発表される場合は、先に入会手続きを日本遺伝学会ホームページ (<http://gsj3.jp/nyukai.html>) からお願いします。会費納入は7月3日(水)までをお願いします。なお、会員でなくても非会員扱いで大会には参加はできます。
- ・ 演題登録後、確認修正画面で登録番号により登録をご確認下さい。

**9. 学生会員の旅費援助**

- ・ 学生会員の参加奨励のため、発表する学生会員に旅費の一部を援助(交通費実費程度)いたします。ただし、所属研究室や日本学術振興会などから旅費が支給される方はご遠慮ください。
- ・ 大会全期間参加を条件とします(9月19日(木)-21日(土))。
- ・ 申請方法：申請書は1人につき以下の6項目についてA4一頁に記載し、下記住所まで郵送してください。

- 1) 氏名、2) 所属と学年、3) 所属住所、4) 旅費援助希望理由、5) メールアドレス、6) 指導教員のサインと押印

締め切り：7月3日(水)必着

送付先：〒411-8540 三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内 日本遺伝学会  
日本遺伝学会85回大会 旅費援助申請係  
TEL: 055-981-6736 FAX: 055-981-6736

#### 10. Best Papers 賞

昨年の大会と同様の要領で、大会発表の一般演題の中から優れた研究発表10件程度を選んで表彰いたします。一般講演として登録後、ワークショップの口演発表として選ばれた演題も対象になります。

#### 11. 2013年度男女共同参画推進にかかわる大会参加支援について

日頃より日本遺伝学会会員の皆様には、男女共同参画推進の活動に対するご理解、ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。日本遺伝学会では、毎年の大会開催に際し、大会準備委員会による保育室の設置とともに、学会として保育室利用料金の半額支援を行ってまいりました。支援の多様化に対応するために、第83回大会から1件の上限を5万円とする大会参加支援を新設いたしました。この支援は、大会参加のための旅費、大会参加中の保育に関わる費用、大会参加者が不在になることによって保育や介護に必要となる費用等に充てていただくためのもので、大会準備委員会にて設置する保育室の利用についてもこの支援に含むものといえます。利用をご希望の方は、この大会参加支援への申請により、ご希望をお寄せください。この支援には、育児休暇や介護休暇中であっても応募できるものとしております。どうか奮ってご応募ください。

支援額：1件5万円を上限とする。総額15万円程度を予定。

(保育施設の利用料金については、大会ホームページをご覧ください。)

支援の対象：第85回大会に参加を希望する日本遺伝学会員。性別、年齢、発表の有無は問わない。ただし、男女共同参画推進に該当する事情がある者。

応募方法：「大会参加支援申請書」(別紙様式1)に必要事項を記入し、日本遺伝学会事務局(japgenet@nig.ac.jp)へメールで送付する。

申請の受付：2013年5月1日～6月10日

支援の決定：日本遺伝学会幹事会において迅速に書類審査を行う。審査結果は日本遺伝学会事務局より通知する。

支援の交付：第85回大会受付にて交付する。

成果の報告：大会終了後に大会参加成果報告書(別紙様式2)を日本遺伝学会事務局へ提出する。

\*様式1、および2は、日本遺伝学会ホームページ(<http://gsj3.jp/taikai.html>)、または大会ホームページ(<http://gsj3.jp/taikai/85taikai/>)から入手できます。

#### 12. 参加登録時におけるアンケートについて(男女共同参画推進特別委員会より)

日本遺伝学会は男女共同参画学協会連絡会に加盟し、学会における女性研究者の活動度の現状の調査に協力して、2010年に大会参加者の属性に関するアンケートを実施いたしました。その後も、本学会の活性化と今後のよりよい大会運営をはかるためにも有意義なものとして、学会として同様のアンケートを実施し、皆様のご協力をいただきました。

今年も引き続き、大会への参加登録に際して、性別、職階、大会への参加等に関して、簡単なアンケートを実施させていただく予定です。各項目とも回答は選択式で、2～3分で終了いたしますが、回答は任意ですので、お答えいただける範囲で結構です。また、回答は統計的に処理いたしますので、個人を特定する情報として利用されることはありません。

アンケート実施へのご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

#### 13. 公開市民講座

- ・テーマ：ゲノム研究が切り拓く新しい地平線
- ・日時：平成25年9月21日(土) (17:30-20:00)
- ・会場：慶應義塾大学 日吉キャンパス 第4校舎独立館 D101

- ・ 共 催：慶應義塾大学自然科学研究教育センター
- ・ 入場無料、申込不要です。会場まで直接お越し下さい。
- ・ 概 要

近年のゲノム科学の進歩は目覚ましいものであり、その最先端の技術が医療や新薬開発に応用されつつある一方で、生物の遺伝学・進化学においても新たな発見を次々と生み出しています。最先端のゲノム解析技術によって遺伝学の何がどこまで明らかになっており、それが人類に何をもたらすのか。これは21世紀を生きる私たちにとって極めて関心が高く、重要なテーマではないでしょうか。例えば、生活習慣病のように頻度の高い疾患においてもゲノム配列の多様性が深く関与していると考えられており、近い将来、個人ゲノム情報に基づいた診断と治療が可能になると考えられております。しかし一方で、個人情報としてのゲノム解読には漠然とした不安と抵抗感を持ってしまうことも否めません。したがって、私達が無用な誤解を持たずに健康で安全な生活を営むためには、最先端ゲノム研究の成果を正しく理解することが不可欠です。

日本遺伝学会第85回大会では、「最先端のゲノム科学技術が現在そして未来の遺伝学にどのように生かされるのか」を理解するための機会として、公開市民講座を開催します。3名の最先端の研究者による講演に加え、質疑応答や自由な議論の場を設けることにより、一般の人々にとって遠い存在である研究者が何を考え、何を目指しているのかを直接知る機会を提供したいと考えております。入場無料・申込不要ですので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

- ・ 講演者と演題
  - ① 辻 省次（東京大学大学院医学系研究科・教授）  
「パーソナルゲノム解析が医療を変貌させる」
  - ② 五條堀 孝（国立遺伝学研究所・教授）  
「ゲノム科学が解き明かす眼の起源と進化」
  - ③ 岡田 典弘（東京工業大学・名誉教授）  
「シーラカンスの全ゲノム決定で解ったこと」

#### 14. 日本遺伝学会第85回大会組織委員会

大会委員長	岡田 典弘（東京工業大学）
大会副委員長	荻原 保成（横浜市立大学木原生物学研究所）
事務局 長	松本 緑（慶應義塾大学理工学部）
プログラム委員長	岩崎 博史（東京工業大学大学院生命理工学研究科）
プログラム副委員長	西原 秀典（東京工業大学大学院生命理工学研究科）
プログラム委員	（あいうえお順）
	相澤 康則（東京工業大学大学院生命理工学研究科）
	川浦香奈子（横浜市立大学国際総合科学部）
	黒川裕美子（東京工業大学大学情報生命博士教育院）
	颯田 葉子（総合研究大学院大学先端科学研究科）
	四宮 愛（慶應義塾大学理工学部）
	鈴木 崇之（東京工業大学大学院生命理工学研究科）
	田中 幹子（東京工業大学大学院生命理工学研究科）
	筒井 康博（東京工業大学大学院生命理工学研究科）
	中戸川 仁（東京工業大学大学院生命理工学研究科）
	二階堂雅人（東京工業大学大学院生命理工学研究科）
	堀田 耕司（慶應義塾大学理工学部生命情報学科）
	山口 雄輝（東京工業大学大学院生命理工学研究科）

- #### 15. 共 催
- 慶應義塾大学理工学部

## 16. 連絡先

日本遺伝学会第85回大会運営事務局

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-4-4 岩波書店一ツ橋別館 4F (エー・イー企画内)

TEL: 03-3230-2744

FAX: 03-3230-2479

E-mail: iden85@aeplan.co.jp

**お知らせ**

黒岩 麻里会員（北海道大学大学院理学研究  
院准教授）が平成25年度 科学技術分野の  
文部科学大臣表彰若手科学者賞を  
受賞されました。

**研究題目**

Y染色体をもたない哺乳類種の  
性染色体進化の研究



また、ご所属機関の推薦により森脇和郎名誉会員（理化学研究所名誉顧問）、岩崎博史会員（東京工業大学教授）がそれぞれ文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門）を、渡辺正夫会員（東北大学大学院教授）が文部科学大臣表彰科学技術賞（理解増進部門）を受賞されました。

## 2013年度第1回幹事会・評議員会議事録

日 時：2013年4月2日（火）11時00分～13時30分（幹事会）  
13時45分～15時45分（評議員会）

場 所：京都大学東京オフィス（品川インターシティA棟27階）

出席者：遠藤、真木、小林武彦、関根、館田、岩崎、遠藤、篠原、那須田、権藤、平野、小林一三、田村、金澤、山本、澤村、菱田、高橋、深川、石井、高野、村田、和多田、佐々木、中別府、榎屋、鈴木（事務局）（敬称略、順不同）

### 1. 会長挨拶 遠藤 隆

日本遺伝学会の国際化とアジア遺伝学会の設立をめざして、引き続きアジア遺伝学会特別シンポジウムを今後も開催していきたい。また、会費、投稿料などのクレジットカード支払い導入や幹事体制の強化をはかりたい。（詳細は2. 報告事項参照）

### 2. 報告事項

#### ①会長報告 遠藤 隆

第3回アジア遺伝学会特別シンポジウムはジェノミクス分野を五條堀先生にお願いすることにした。また岩崎先生より、東工大のKAISTの先生に分子遺伝の分野で開催をお願いしはどうかと意見が出され、岩崎先生にとりまとめをお願いした。

IGFより4/16に開催される国際遺伝学会に代表を送るように打診されたが、連絡が間際であったこと、会計報告が不明瞭などいくつか疑問が残るため代表を送らないこととした。アメリカ遺伝学会の動向を確認し、日本遺伝学会の対応を決める事とした。

会費、投稿料、別刷代などのクレジットカード支払いを導入することが提案され、了承された。秋の総会までに手続きを進め、総会で承認していただく。

今後幹事の引き継ぎが円滑に行われるような体制を整えたい。また、新規会員の獲得、若手の育成、定年者の退会の歯止め対策を行いたい。

#### ②国内庶務幹事報告 小林 武彦

2013・2014年度役員の紹介、昨年の総会以降の学術賞・研究助成報告（持田学術賞、井上学術賞）および育志賞、学術振興会賞推薦の依頼がなされた。

#### ③渉外庶務幹事報告 岩崎 博史

昨年末に開催された遺伝学談話会および今後開催する談話会の準備について報告がなされた。

また、生物科学学会連合第6回定例会議出席および生物科学分野の大型研究施設・大型研究拠点計画シンポジウム出席の報告がなされた。

#### ④会計幹事報告 真木 寿治

2012年度決算報告がなされた

#### ⑤編集幹事報告 館田 英典

GGs 発行状況（VOL87 NO. 1-VOL88 NO. 1 まで）、論文投稿状況（4/1現在）、GGs PRIZE2012の報告（GGs VOL87 NO. 5 に掲載）、GGs PRIZE2013 推薦の依頼、今年度まで申請してきた科研費（学術定期刊行物）から「国際情報発信強化」に変更となり申請中であること、GGs VOL88 NO. 2-VOL89 NO. 1 制作の入札を実施しレタープレスが落札したことが報告された。Review については岩崎編集委員を Review Editor とし、今後原稿を依頼する際に謝金をお支払いするなどして執筆をお願いしてはどうかという提案がなされた。また、Instruction to Authors の改訂が報告された。この他に懸案事項としてアジア系編集委員追加の検討、および journal scope の書き換えも含めた GGs の方向性を検討するために WG（真木、平野、中別府委員）を設置したことが報告された。

#### ⑥企画・集会幹事報告 遠藤 俊徳

第85回大会でのプレナリーWS 講演候補者についての報告がなされた。1 演題15分で5 演題とすることで了承され、5 人の候補者に打診することとした。また、2015年度大会候補地として東北大学があがった。今後遠藤幹事より東北地区の会員に大会開催について打診する。

#### ⑦将来計画幹事報告 山本 博章（榎屋啓志、小林武彦代理）

遺伝学用語集冊子体進捗状況について説明がなされた。今後はどのように出版社に打診していくか検討する。

また、法人化については他の学協会の状況を考慮し、法人格を持つか否かも含め、本会の運営形態を検討していきたい。

⑧男女共同参画推進担当 篠原 美紀

男女共同参画推進特別メンバーの交替が報告された（川岸郁朗→一柳健司）。また第84回大会参加登録時のアンケートの結果、座長・オーガナイザーで女性の比率が低かったことが報告された。第85回大会でもアンケートの実施、ランチョンWSの開催および大会参加支援を行うことが報告された。昨年12月の大規模アンケートの回答率が参加学協会の中で4位と高回答率であったことが報告された。今後の活動とし『女子中高生夏の学校』への参加と『女子中高生のための関西科学塾』への支援を行う予定である。

⑨広報担当，ホームページ編集 関根 靖彦

HPの英語版で開設されていないページを，徐々に作成していくことが報告された。また今まで遺伝学会の各賞の英訳名が決められていなかったので，以下のようにHPでは記述することとした。

日本遺伝学会木原賞 → The Kihara Orize

日本遺伝学会奨励賞 → The GSJ Award for Young Scientists

日本遺伝学会特別功労賞 → The GSJ Award for outstanding Contributions

⑩第85回大会準備状況

WS公募状況は12演題のエントリーがあったことが報告された。今年も昨年と同様に分野別懇談会を開催する。またプログラムの英語バージョンの作成を行う。評議員より英語の要旨を提出する時期を発表後にしてもらえると，就職活動などで忙しい学生が参加しやすくなるという要望がだされた。対応が可能なので検討したいと編集委員長より回答がなされた。

⑪その他

真木幹事より3月7日に基礎生物学研究所にて行われたバイオリソース・バックアップ事業の開所式に出席の報告がなされた。また高校生にもっと生物について興味をもってもらえるように，学会として活動するようにはどうかという意見がだされた。

以上

# 第14回 遺伝学談話会報告

日時：2012年12月25日 14時～16時

場所：慶應義塾大学日吉キャンパス 来往舎シンポジウムスペース

今回の遺伝学談話会は、慶應義塾大学教養研究センターのサイエンス・カフェ23と共催し、横浜市港北区に位置する慶應大学日吉キャンパスで行われました。

演者の五條堀孝会員は前日本遺伝学会会長で、「君はプランクトンを見たか?～最新メタゲノム解析が解き明かす海洋微生物多様性の知られざる世界～」の演題でご講演いただきました。タイトルが示すように若者を意識された内容で、デカルトの「我思う我有り」から始まり、ダーウィン、メンデルはもとより、木村資生先生の中立説まで、高い見識で生物学・遺伝学の歴史を俯瞰したのち、五條堀会員がご専門にしておられる最新のゲノム科学の現状を大変平易にご説明して下さいました。さらに、現在まさに研究されているゲノミクス、特に海洋メタゲノムを軸にした眼の起源に関する洞察は、最前線でご活躍されている研究者の情熱がひしひしと伝わってきて、聴衆を圧倒しました。

いままでの談話会は、大学生、大学院生、及び、研究者が主な参加対象でした。今回は、慶應大学サイエンスカフェの協力を得て、より広い聴衆を意識して企画をしました。その結果、総勢45名の参加者中には、小学生、



五條堀孝会員

中学生から某大学名誉教授まで幅広く、老若男女に参加していただくことが出来ました。また、高校の生物学の教員の方も何名かいらしたようです。こういうなか、五條堀会員のご努力により、遺伝学、生物学、ひいては科学の楽しさ・おもしろさが、広く一般の方に伝わったのではないかと思います。コーヒー片手に語り合うというサイエンス・カフェによくあるスタイルは、参加者が予想以上に多かったこともあり、実現はしませんでした。今回のように、よりリラックスした雰囲気、若い方、特に、中学生や高校生を意識した遺伝学談話会というのも、今後のあり方の一つではないのかと思いました。開催後に、ある中学生が感想を寄せてくれました。そこからの抜粋を転載して結びとします。

「前略……今回のお話を聞いて、科学の世界を垣間見れて、すごく勉強になりました!! DNAの塩基配列を医療にいかすというお話は正直とてもひかれました。そういった研究をする道もいいなあって。そのために今から勉強がんばらないとですね!!……後略。」

慶應義塾大学教養研究センター極東証券寄附講座 「生命の教養学」 一般公開セミナー  
サイエンス・カフェ 23 with 日本遺伝学会遺伝学談話会  
ReCLA

## 「君はプランクトンを見たか？」

～最新メタゲノム解析が解き明かす  
海洋微生物多様性の知られざる世界～

現在、迅速にかつ大量に読み取る次世代シーケンサーを用いて、日本周辺の海域の各地点より、数リットルの海水をくみ上げ、そこに存在するプランクトンや細菌などの微生物のDNAゲノム断片のすべてを解析するという「メタゲノム解析」を行っています。目には見えない新しい海洋の世界の動的な変化から、海洋環境の保全はもちろんのこと、海洋日本が目指す新しい社会ビジョンもお話します。

日時：2012年12月25日(火) 14:00～16:00

講師：五條堀 孝氏 (国立遺伝学研究所・教授/日本遺伝学会会長)

場所：慶應義塾大学日吉キャンパス 来往舎 シンポジウムスペース

参加費：無料 (子どもから大人までどなたでもご参加いただけます。)

申込み：必要/先着順 eメール、ハガキ、ファックスなどお名前・人数・連絡先をお知らせください。

サイエンスカフェとは、お茶を片手に気軽に雰囲気の中で科学の話について語り合う場です。

申込みメール

連絡先 慶應義塾大学教養研究センター 〒223-8521 横浜市港北区日吉4-1-1  
eメール toiwase-lib@adst.keio.ac.jp Tel. 045-566-1151 fax 045-566-1102

慶應大学教養研究センターが魅力的なポスターを作って下さいました。

(渉外庶務幹事 岩崎 博史)

## 日本環境変異原学会第42回大会（岡山）

日本環境変異原学会は人々の生活と環境の安全・安心を確立するため、種々の遺伝毒性物質を検出・評価する手法の開発と普及に努め、医薬品、食品、化粧品、農薬、化学物質、環境の安全を守ることに役立つ研究を推進し、成果はレギュラトリーサイエンスにも反映され、多くの社会貢献を行っております。

開催日：2013年11月29日（金）～30日（土）

会場：岡山コンベンションセンター（岡山駅より2分）<http://www.mamakari.net>

テーマ：「変異と進化を考える—我々はどこから来たのか、我々はどこへ行くのか」

シンポジウム1：同上のテーマと同じ

シンポジウム2：光遺伝毒性

一般演題：変異原性・抗変異原性、遺伝毒性、革新的遺伝毒性検出手法・技術、次世代影響、突然変異の分子生物学、エピジェネティクス、オミックス研究、リスク評価・施策等

参加費：【事前登録】一般会員：10,000円、学生会員：3,000円、非会員：12,000円

【当日登録】一般会員：12,000円、学生会員：5,000円、非会員：15,000円

主催：日本環境変異原学会第42回大会実行委員会

後援：就実大学

問い合わせ先：日本環境変異原学会第42回大会事務局（就実大学薬学部内）

須藤鎮世（Tel & Fax：086-271-8357, [sutou@shujitsu.ac.jp](mailto:sutou@shujitsu.ac.jp)）

工藤季之（Tel：086-271-8428）

第42回大会 E-mail: [jems2013@shujitsu.ac.jp](mailto:jems2013@shujitsu.ac.jp)

第42回大会 URL: <http://www.pac.ne.jp/jems2013/>

## 国立遺伝学研究所 テニュアトラック准教授募集要項

### 1 募集内容：

国立遺伝学研究所（遺伝研）では新分野創造センターのテニュアトラック准教授2名を公募します。任用条件は、「創造性にとんだアプローチで挑戦的な研究を行い、生命科学の新しい分野を開拓する意欲をもつ若手研究者で、本研究所の研究環境・資源を活用して新分野創造につながる成果をあげることが期待できる者」です。採用者は、遺伝研の研究環境を利用し、研究実施のための様々なサポート（下記参照）を受けながら、研究室主宰者として独立した研究室を運営していただきます。

遺伝研では、男女共同参画の精神にのっとり女性研究者の積極的登用を目指しております。子育て中の教員に対する支援なども考慮しておりますので、女性研究者の積極的な応募を期待しています。なお、三島市は豊かな自然環境、職住近接等の条件が整い、子育てがしやすい地域です。市も子育て支援に力を入れており、待機児童数も大都市に比べると大変少ない状況です。

また、情報・システム研究機構では、「男女共同参画推進委員会」を設置し、女性の活躍の場が広がることを期待して独自の活動を展開しております。

### 2 雇用条件・サポート・研究環境：

#### ・雇用条件

身分：准教授

雇用期間：5年（ただし、平成25年4月1日以降に情報・システム研究機構に期間を定めて雇用されていた者についてはその期間を含め5年とする）

テニュアトラック制

給与：情報・システム研究機構職員給与規程に基づき支給

テニュア評価：着任から5年までに実施し、テニュア准教授または教授へ任用が可能

#### ・サポート

ラボスペース：140 m<sup>2</sup>程度

基盤研究費（予定）：1年目：1,200万円、2年目：1,000万円、3年目：500万円、以降：300万円

研究員サポート：ポストドク1名、研究補助員1名（当初任期の期間雇用可能）



・研究環境

遺伝研は充実した共通機器を有し、遺伝子資源・各種モデル生物の変異体などのリソースの活用も可能であり、多くの共同研究も推進しています。テニユアトラック准教授は、総合研究大学院大学・遺伝学専攻の併任教員として大学院生の教育にも関与します。

3 スケジュール：

応募締切：2013年7月31日(水) 正午必着

候補者面接及びセミナー：2013年9月24日(火)、25日(水)

採用予定時期：決定後できるだけ早い時期

4 提出書類：

(1) 履歴書(英文・和文各1通、年号は西暦、Eメールアドレス記入)

(2) 学術論文、総説などの目録(主要論文の番号に○印を付し、URLを付記)

(3) 研究計画(英文2,000語以内、最初にタイトルと要旨(400語以内)を記し、必要に応じてこれまでの研究内容や図を加えること)

(4) 略歴書(HPからファイルをダウンロードして記入)

(5) 推薦書3通(推薦書送付方法はHPに掲載)

5 提出方法：

・提出書類(1)～(3)の内容は改頁で区切り、一つのファイル(MS-Wordまたはpdf)にして、(4)の略歴書とともにメール添付で送付ください。

・(5)の推薦書は、推薦書送付方法に基づき推薦者より直接送付願います。

メール題名(Subject)は「CFR application」としてください。メール着信後2日以内に受信した旨返信いたします。

メールでの応募が不可能な場合にのみ郵送での応募も受け付けます。郵送する場合は封筒に「CFR application」と朱書きし、書留で送付ください。

提出・問い合わせ先等：

情報・システム研究機構国立遺伝学研究所人事委員会(人事・労務チーム)

E-mail：nigijinji@nig.ac.jp

郵送：〒411-8540 静岡県三島市谷田1111番地

電話：055(981)6716(直通) Fax：055(981)6734

ホームページ：http://www.nig.ac.jp/

国立遺伝学研究所機構図(<http://www.nig.ac.jp/section/index-j.html>)

## 独立行政法人理化学研究所 准主任研究員(定年制職員)公募

独立行政法人理化学研究所では、以下の要領で准主任研究員を公募します。

1. 募集人数：1名

2. 募集分野：研究分野は特定しません。応募者自身の自由な発想に基づく学際的な研究分野を開拓していただきます。

3. 応募資格：長期的視野を持つ、次世代の科学技術分野を創成できる自律的研究者で、研究室を主宰するのに十分な能力と研究業績を有する方。(博士取得後10年未満程度)

4. 研究資金、権限、責任の範囲：

(1) 研究室立ち上げから最初の5年間で総額1億円を支給します。

(2) 所内、所外の様々な競争的研究資金への応募が可能です。

(3) 任期制研究員の人事推薦、基礎科学特別研究員/ジュニアリサーチアソシエイトの受け入れ、物品購入、研究資金申請、研究スペース申請等の権限があります。

(4) 室員の服務管理、予算執行管理、物品使用管理等の責任があります。

(5) 定年制研究者の人事推薦権はありません。(既存の定年制研究者が移籍により室員となることは可。)その他の詳細は、<http://www.riken.jp/careers/researchers/20130501/> をご覧下さい。

5. 待遇等：年俸制（報奨金制度有り）。通勤手当，住宅手当の支給有り。社会保険の適用有り。  
休日は，土日，祝日，年末年始（12/29-1/3），当研究所設立記念日。その他，当研究所規程による。理研共済会（互助組織）に入会（理研共済会規約による）。  
日本学生支援機構奨学金（平成15年度までに大学院第一種奨学生に採用されている場合）の返還特別免除の対象職。科学研究費補助金の申請資格有り。
6. 勤務形態：常勤，60歳定年。  
勤務地は，研究実施上の適性，センター長等との調整によって決定いたします。
7. 着任時期：2014年4月1日（原則）
8. 選考方法：書類審査による一次選考の後，**2013年11月26日**に面接セミナーを行います。  
選考の結果は，可否に関わらず通知致します。（Form1にご記入頂いたメールアドレスに通知致します。）  
審査内容，選考結果に関する個別の問合せはお受けできませんので予めご了承下さい。
9. 応募様式・その他：詳細はHPを参照して下さい。  
<http://www.riken.jp/careers/researchers/20130501/>
10. 応募締切：**2013年7月31日（水）17時（日本時間）**必着  
書類提出は郵送もしくは直接持参に限定。郵送の場合は必ず書留とする。E-mail, FAXでの申請の他，書類不備や締切後の申請は受け付けません。また，書類の返却はいたしません。
11. 書類提出・問合せ先：  
〒351-0198 埼玉県和光市広沢2-1  
（独）理化学研究所 外務・研究調整部  
准主任研究員事務局  
E-mail : [riken-acs25@riken.jp](mailto:riken-acs25@riken.jp) 電話による問合せ不可

[個人情報の取扱について]

提出頂いた書類は，独立行政法人理化学研究所個人情報保護規程に則り厳重に管理し，採用審査の用途に限り使用され，正当な理由なく第三者への開示，譲渡及び貸与することは一切ございません。

## 第30回（平成25年度）持田記念学術賞候補者推薦依頼について

持田記念医学薬学振興財団より第30回（平成25年度）持田記念学術賞候補者の推薦依頼が届いております。推薦を希望される方は推薦書1部および別刷論文10報以内各1部およびその写し11部を郵送にて、2013年7月1日（月）（学会内で選考のため財団の提出締めきりより、通常は1ヶ月早く締めきる。）までに学会事務局宛にご送付ください。

（学会問い合わせ先）

TEL 055-981-6736 FAX 055-981-6736

E-mail: japgenet@nig.ac.jp

担 当：鈴 木

### 第30回（平成25年度）持田記念学術賞候補者の推薦要領

#### 1. 持田記念学術賞の対象

本財団は、生命科学を中心とする医学、薬学及びこれらに関連する物理学、化学、工学、生物学等の先見的独創的研究を育成し、かつ、これらの成果を総合して医療をはじめとするヘルスケアに応用し、もってわが国の医療及び国民の保健の向上に資することを目的としております。持田記念学術賞はその一環として創設された冠となる賞であり、次の6項目の研究分野で、研究の進歩発展のため顕著な功績のあった研究者に贈呈致します。

- (1) バイオ技術を基盤とする先端医療に関する研究
- (2) バイオ技術を基盤とするゲノム機能／病態解析に関する研究
- (3) 免疫／アレルギー／炎症の治療ならびに制御に関する研究
- (4) 循環器／血液疾患の病態解析／治療制御に関する研究
- (5) 創薬・創剤の基盤に関する研究
- (6) 創薬の臨床応用に関する研究

#### 2. 副 賞

平成25年度に限り、設立30周年記念事業の一環として1件1,000万円に記念特別付加金500万円を加えた1,500万円を贈呈（2件以内採択予定）

#### 3. 推 薦 人

- 1) 本財団より推薦依頼を受けた学会
- 2) 本財団の理事又は諮問委員

※ 1 推薦人は1候補者に限ります。

#### 4. 推 薦 方 法

別添推薦書に必要な事項を記入し、署名・捺印の上、本財団あてに送付してください。

#### 5. 締 切 期 日

平成25年7月31日（水）（当日までの消印有効）

#### 6. 選考の方法

選考作業は選考委員会が行い、平成25年9月27日（金）に受賞候補者を内定し、本財団理事会に諮り決定いたします。

#### 7. 褒賞金の贈呈式

平成25年10月25日（金）

#### 8. 提出先及び問合せ先

財団法人 持田記念医学薬学振興財団 事務局

〒160-0003 東京都新宿区本塩町7番地6 四谷ワイズビル

Tel. (03)3358-7211（代表）

Fax. (03)3357-1264

E-mail: zaidan@mochida.co.jp

URL: <http://www.mochida.co.jp/zaidan/index.html>

## 第30回（2013年度）井上學術賞受賞候補者の推薦について

推薦を希望される方は財団への提出書類（推薦書1部および別刷論文各2部）およびその写し11部を郵送にて、2013年8月20日（火）（学会内で選考のため財団の提出締めきりより、通常は1ヶ月早く締めきる。）までに学会事務局宛にご送付ください。

（学会問い合わせ先）

TEL 055-981-6736 FAX 055-981-6736

E-mail: japgenet@nig.ac.jp

担当：鈴木

### 第30回（2013年度）井上學術賞受賞候補者推薦要項

財団法人 井上科学振興財団

#### 1. 候補者の対象

自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績をあげた研究者で、2013年9月20日現在の年齢が50歳未満の者。

#### 2. 学 術 賞

本賞：賞状及び金メダル 副賞：200万円

授賞件数は5件以内とします。

注）受賞者は、原則として1件につき1人とします。特に複数であることを必要とするときは、それらの研究者の寄与が同等であることを示してください。但し、この場合においても1件として取り扱います。

#### 3. 応募手続

36学会、当財団の選考委員経験者および受賞後5年を経過した井上學術賞受賞者に推薦を依頼します。

#### 4. 推薦件数

各推薦学会からは2件以内とします。

#### 5. 提出書類

受賞候補者推薦書1部（<http://www.inoue-zaidan.or.jp/>よりダウンロードできます）および業績の主体となる文献2部。

#### 6. 締切期日 2013年9月20日（金）必着

#### 7. 選 考

当財団の選考委員会において選考し、理事会において決定します。

選考の結果は、2013年12月中旬に推薦者に通知します。

#### 8. 学術賞の贈呈

2014年2月4日（火）午後4時から 東京で開催の予定。

#### 9. 推薦書提出先及び連絡先

財団法人 井上科学振興財団

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町15-15

南平台今井ビル601

電話：03-3477-2738

FAX：03-3477-2747

E-mail: inoue-fs@inoue-zaidan.or.jp

## 第45回（2013年度）内藤記念科学振興賞候補者推薦について

推薦を希望される方は提出書類（財団 HP 参照）およびその写し11部を郵送にて、2013年9月3日（火）（学会内で選考のため財団の提出締めきりより、通常は1ヶ月早く締めきる。）までに学会事務局宛にご送付ください。

詳細は以下の HP を参照ください。

<http://www.naito-f.or.jp/>

（学会問い合わせ先）

TEL 055-981-6736 FAX 055-981-6736

E-mail: japgenet@nig.ac.jp

担当：鈴木

## 第45回（2013年度）内藤記念科学振興賞候補者推薦要領

### 1. 趣 旨

人類の健康の増進に寄与する自然科学の基礎的領域において進歩発展に顕著な功績のあった研究者に対して褒章を授与するものである。

### 2. 候補者資格

- 1) 人類の健康の増進に寄与する自然科学の基礎的研究において、独創的テーマに取り組み、進歩発展に顕著な功績を挙げた研究者。
- 2) 候補者は単独とするが、異なる研究グループによる共同研究の場合には、連名であっても良い。
- 3) 候補者の再度の推薦は差支えない。

### 3. 推薦方法

財団ホームページ「振興賞」に記載の順に従い推薦する。

### 4. 締 切 日

2013年10月1日（火）財団必着

### 5. 授賞式・顕彰

授賞式は受賞者夫妻を招いて2014年3月20日（木）に行う。

受賞者には内藤記念科学振興賞（正賞：金メダル、副賞：1,000万円）を贈呈する。

◆ 会 員 異 動 ◆

新入会・再入会

田 中 幹 子	226-8501	横浜市緑区長津田町4259 B-17 東京工業大学大学院生命理工学研究科
鈴 木 崇 之	226-8501	横浜市緑区長津田町4259 B-17 東京工業大学大学院生命理工学部共通講座・鈴木研究室
松 本 緑	223-8522	横浜市港北区日吉3-14-1 慶應義塾大学・理工学部・生命情報学科・発生生殖生物学研究室
吉 川 学	305-8602	つくば市観音台2-1-2 農業生物資源研究所 植物・微生物間相互作用研究ユニット
堀 田 耕 司	223-8522	横浜市港北区日吉3-14-1 慶應義塾大学・理工学部・生命情報学科
吉 田 恒 太	411-8540	静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所
山 口 雄 輝	226-8501	横浜市緑区長津田町4259 東京工業大学大学院生命理工学部研究科

退 会

小須田和彦, 西田育巧, 光澤 浩, 田上和美, 渡辺和哉, 石渡啓介, 松田隆子, 楠田美枝, 馬 立秋, 飯田 滋, 岩渕由希, 倉島公憲, (株)資生堂第2リサーチセンター図書室, 名古屋大学農学部図書室, 東北大学 附属図書館農学部分館, 滋賀医科大学附属図書館

寄贈図書・交換図書

科学	Vol. 83	No. 4, 5	(2013)
Acta zoologica cracoviensia	Vol. 82	No. 1, 2	(2012)
folia biologica	Vol. 60	No. 1-4	(2012)
folia biologica	Vol. 61	No. 1, 2	(2013)
CHINESE QINGHAI JOURNAL OF ANIMAL AND VETERINARY SCIENCES	Vol. 43	No. 1, 2	(2013)
ChineseJournal of APPLIED & ENVIRONMENTAL BIOLOGY	Vol. 18	No. 5, 6	(2012)
ChineseJournal of APPLIED & ENVIRONMENTAL BIOLOGY	Vol. 19	No. 1	(2013)

(鈴木真有美)

# 日本遺伝学会会則

- 第1条 本会は日本遺伝学会と称する。
- 第2条 本会は遺伝に関する研究を奨め、その知識の普及を計ることを目的とする。
- 第3条 本会は事務所を静岡県三島市谷田、国立遺伝学研究所内におく。
- 第4条 本会に入会しようとするものは住所、氏名および職業を明記して本会事務所に申し込むこと。
- 第5条 本会会員は普通会員、機関会員、賛助会員および名誉会員とする。毎年普通会員は会費10,000円（ただし在学証明書またはそれに代わるものを提出したとき、あるいは定年退職して常勤職でなくなったことを申し出たときは6,000円）を、機関会員は15,000円を、賛助会員は1口（20,000円）以上を前納すること。会員で会費滞納1年におよぶものは資格を失うものとする。
- 第6条 本会は次の者を総会の決議により名誉会員にすることができる。  
本会に功労のあった者、外国の卓越した遺伝学者。
- 第7条 本会は隔月1回遺伝学雑誌を発行して会員に配布する。
- 第8条 本会は毎年1回大会を開く。大会は総会と講演会とに分け、総会では会務の報告、規則の改正、役員選挙および他の議事を行い講演会では普通会員および名誉会員の研究発表をする。  
大会に関する世話は大会委員若干名によって行い、大会委員長は会長が委嘱する。大会は臨時に開くことがある。
- 第9条 本会は各地に談話会をおくことができる。
- 第10条 本会は会長1名、幹事若干名、会計監査2名の役員、および評議員若干名をおく。  
1) 会長は本会を代表し、会務を統轄する。  
2) 会長は、評議員が全普通会員の中から選出した複数の候補者から普通会員による直接選挙によって選出される。  
3) 評議員は、普通会員による直接選挙で選出される。  
4) 幹事は、会長が推薦する候補会員を評議員の過半数が承認することにより選任される。  
5) 会計監査は、会長が推薦する候補会員を評議員の過半数が承認することにより選任される。  
6) 会長は評議員会を招集し、その議長を務める。幹事は評議員会に出席するものとする。  
7) 評議員会は会員を代表して、事業計画、経費の収支、予算・決算、学会誌の発行、大会の開催、その他重要事項について審議し、出席評議員の過半数をもって議決する。  
8) 会長ならびに幹事により幹事会を構成し、会長がこれを代表する。  
9) 幹事会は、学会の関連事項を論議し評議員会に諮ると共に、会務を執行する。  
10) 会計監査は、学会の会計を監査する。
- 第11条 役員および評議員の任期は2カ年とする。会長および評議員は連続三選はできない。
- 第12条 本会の事務年度は暦年による。
- 付則 平成7年10月13日に第5条を改正し、平成8年1月1日から施行する。
- 付則 平成21年9月17日に第5条を改正し、平成22年1月1日から施行する。

<p><b>Genes &amp; Genetic Systems</b> 第88巻2号（付録） 2013年5月31日発行 非売品 発行者 遠藤 隆 印刷所 レタープレス株式会社 Letterpress Co., Ltd. Japan 〒739-1752 広島市安佐北区上深川町809-5番地 電話 082 (844) 7500 FAX 082 (844) 7800</p> <hr/> <p>発行所 日本遺伝学会 Genetics Society of Japan 静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内</p>	<p>学会事務取扱 〒411-8540 静岡県三島市谷田・国立遺伝学研究所内 日本遺伝学会 <a href="http://www.soc.nii.ac.jp/gsj3/index.html">http://www.soc.nii.ac.jp/gsj3/index.html</a> (電話・FAX 055-981-6736 振替口座・00110-7-183404 加入者名・日本遺伝学会)</p> <hr/> <p>国内庶務、渉外庶務、会計、企画・集会、将来計画、編集などに関する事務上のお問い合わせは、各担当幹事あてご連絡下さい。 乱丁、落丁はお取替えます。</p>
--	---